



立ち止まってみることの大切さ

校長 工藤 誠志

10月20日に青森市の新青森県総合運動公園マエダアリーナで開催された青森県特別支援学校技能検定・発表会に出席してきました。県内の特別支援学校の高等部生徒が、日頃の職業教育等の成果を発表したり、各種検定にチャレンジしたりしました。生徒一人一人の真剣さが緊張感となってアリーナ内に張り詰めていました。そんな中であっても会場や通路で関係者と思われる方とすれ違う時に、生徒は元気に「こんにちは」「失礼します」「前を通ります」「お疲れさまです」と挨拶をします。このときの立つ姿勢や声の張り方に感動しました。特に、一度立ち止まり相手の顔を見て挨拶をする姿はすばらしいと感じました。きちっとした一礼がかっこよく、気持ちよくなりました。また、一人の生徒がアリーナの観客席で落ち着かないのか「うおー、おー」と声を発していましたが、移動して競技会場脇で待機するときには声は小さく減りました。そして、競技が始まると、まったく声は発せられなくなり、集中していることがわかりました。検定や発表をする生徒の真剣さや雰囲気をお伝えするには限界があります。保護者の皆様には、ぜひ一度参観することをおすすめします。

技能検定の帰路に八甲田山を経由することにしました。山道の両脇はカエデ・ナナカマドの「赤」、ブナの「黄」、アカマツの「緑」で彩られていました。次第に夕日が山にあたって紅葉の山道はさらに色を変えていきました。その美しさに目を奪われて私は車を停車させました。流れていく景色ではなく、紅葉の景色を色や形で捉え直し目に焼き付けようとする気持ちになったのです。車から降りると、近景から遠景へ、遠景から近景へと私の目はズームを繰り返しました。大きく深呼吸をして「あーいいな」「きれいだな」という言葉とともに今年の紅葉を自分の内側に記録しました。しっかりと確認したいと思うときは、必ず立ち止まることが必要なのです。

校長室脇廊下の十字路で多くの子どもたちが立ち止まります。出会い頭の事故に遭わないように、「ここでは止まるよ」「右や左から来る人がいないか確認します」と指導されています。毎日の積み重ねによりその場所まで来ると、子どもは自然に立ち止まるようになっていきます。立ち止まるという行動によって周囲の状況をしっかり確かめることができるのです。

学校の先生も立ち止まります。授業や指導の経過やまとめに「どれくらい学べているのか?」「成長していることは何か?」「子どもにとってどこが難しいのか?」等と評価をしています。この結果から次に何をねらって指導をするのか、どんな手立てが効果的かなどと、考えているのです。この評価で得られた成果や指導計画等を保護者の皆さんにもお伝えする機会として面談や個別の指導計画、通信簿があります。

子どもの変化や成長した姿に満足感や充実感が得られる喜びはとてもうれしいものです。ときに立ち止まってその状況や成長等をじっくりと振り返ってみてはいかがでしょうか。そして、将来に向かって子ども、保護者、先生もさらに学び成長するために前に進んでいきたいものです。

